

中小企業景況調査報告書

2024年 7月～9月期 実績

(2024年 10月～12月期 予測)

調査実施時点 : 2024年9月1日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各業種の景況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 …… 強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 …… 弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

2024年7月～9月期を対象とした。

調査実施時点 …… 9月1日(日)

調査期間 …… 7月1日(月) ～ 9月30日(月)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、与謝野町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、向日市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、八幡市商工会、木津川市商工会、和束町商工会、長岡京市商工会、京田辺市商工会、久御山町商工会、笠置町商工会、精華町商工会、南山城村商工会、京北商工会、福知山市商工会、伊根町商工会

(計20商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業種	調査対象企業数	構成比	回答企業数	回答率
製造業	36	20.0%	36	100.0%
建設業	24	13.3%	24	100.0%
小売業	53	29.4%	50	94.3%
サービス業	67	37.2%	65	97.0%
【合計】	180	100%	175	97.2%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

採算DIは全体的にやや悪化傾向、業種によって差あり

<概要>

京都府内商工会地域の「売上指数」は製造業・サービス業は緩やかな改善がみられるも、全体としてはやや悪化傾向となった。「採算指数」は全体的にやや悪化傾向。業種によって、建設業は悪化、小売業では改善がみられた。また、経営上の問題点としては、全業種で「原材料や仕入単価の上昇」の回答が1位を占めた。

<業種別売上指数>

- ①全体：売上DIは▲14.1となり、前期の売上DI▲13.7と比べ▲0.4ポイントの悪化となった。
- ②製造業：売上DIは▲27.8となり、前期の売上DI▲33.4と比べ+5.6ポイントの改善となった。
- ③建設業：売上DIは▲20.8となり、前期の売上DI▲12.5と比べ▲8.3ポイントの悪化となった。
- ④小売業：売上DIは▲14.0となり、前期の売上DI▲5.7と比べ▲8.7ポイントの悪化となった。
- ⑤サービス業：売上DIは+6.2となり、前期の売上DI▲3.1と比べ+9.3ポイントの改善となった。

<業種別採算指数>

- ①全体：採算DIは▲33.6となり、前期の採算DI▲28.2と比べ▲5.4ポイントと悪化となった。
- ②製造業：採算DIは▲38.9となり、前期の採算DI▲36.1と比べ▲2.8ポイントの悪化となった。
- ③建設業：採算DIは▲41.7となり、前期の採算DI▲12.5と比べ▲29.2ポイントの悪化となった。
- ④小売業：採算DIは▲28.6となり、前期の採算DI▲47.0と比べ+18.4ポイントの改善となった。
- ⑤サービス業：採算DIは▲25.0となり、前期の採算DI▲17.2と比べ▲7.8ポイントの悪化となった。

<業種別経営上の問題点>

- ②製造業：「1位：原材料価格の上昇」「2位：需要の停滞」「3位：製品ニーズの変化」
- ③建設業：「1位：材料価格の上昇」「2位：従業員の確保難」「3位：官公需要の停滞」
- ④小売業：「1位：仕入単価の上昇」「2位：消費者ニーズの変化」「3位：需要の停滞」
- ⑤サービス業：「1位：材料等仕入単価の上昇」「2位：従業員の確保難」「3位：利用者ニーズの変化」

業種別景況指標

(景気の天気図)

※天気図は売上DI

	R5年			R6			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月(見通)
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

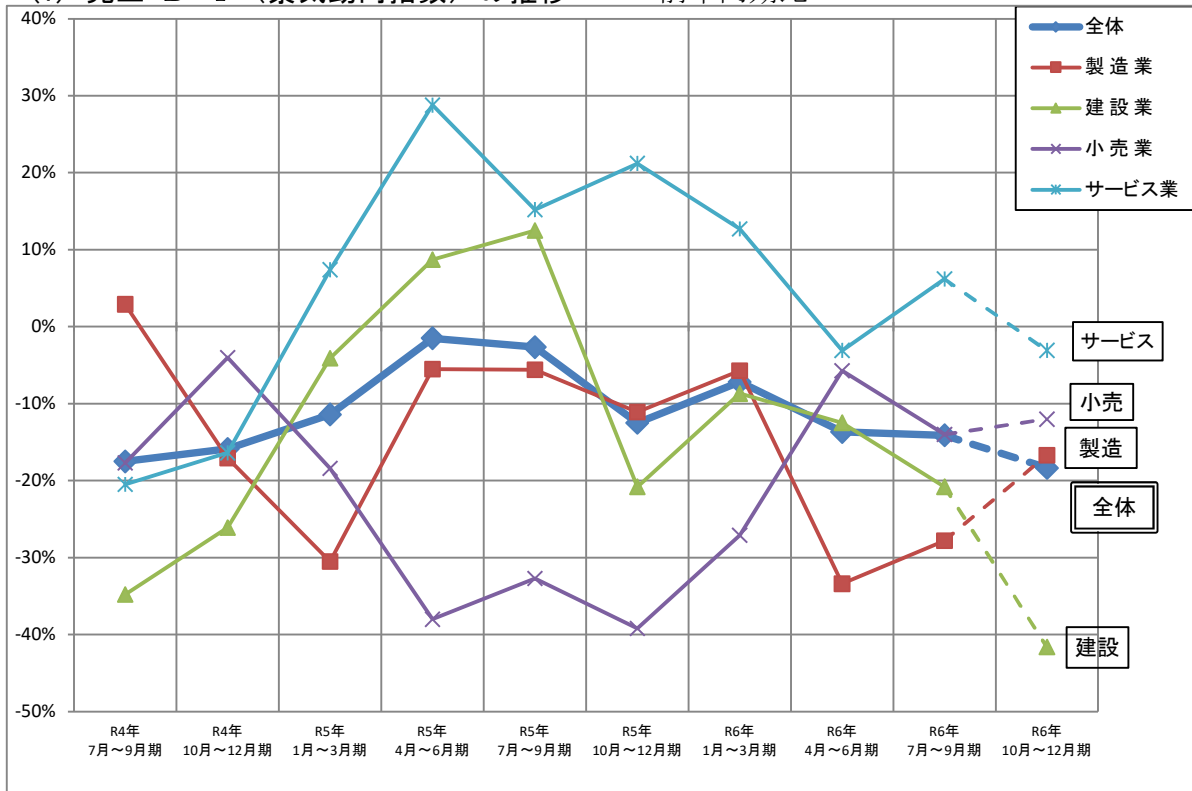
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

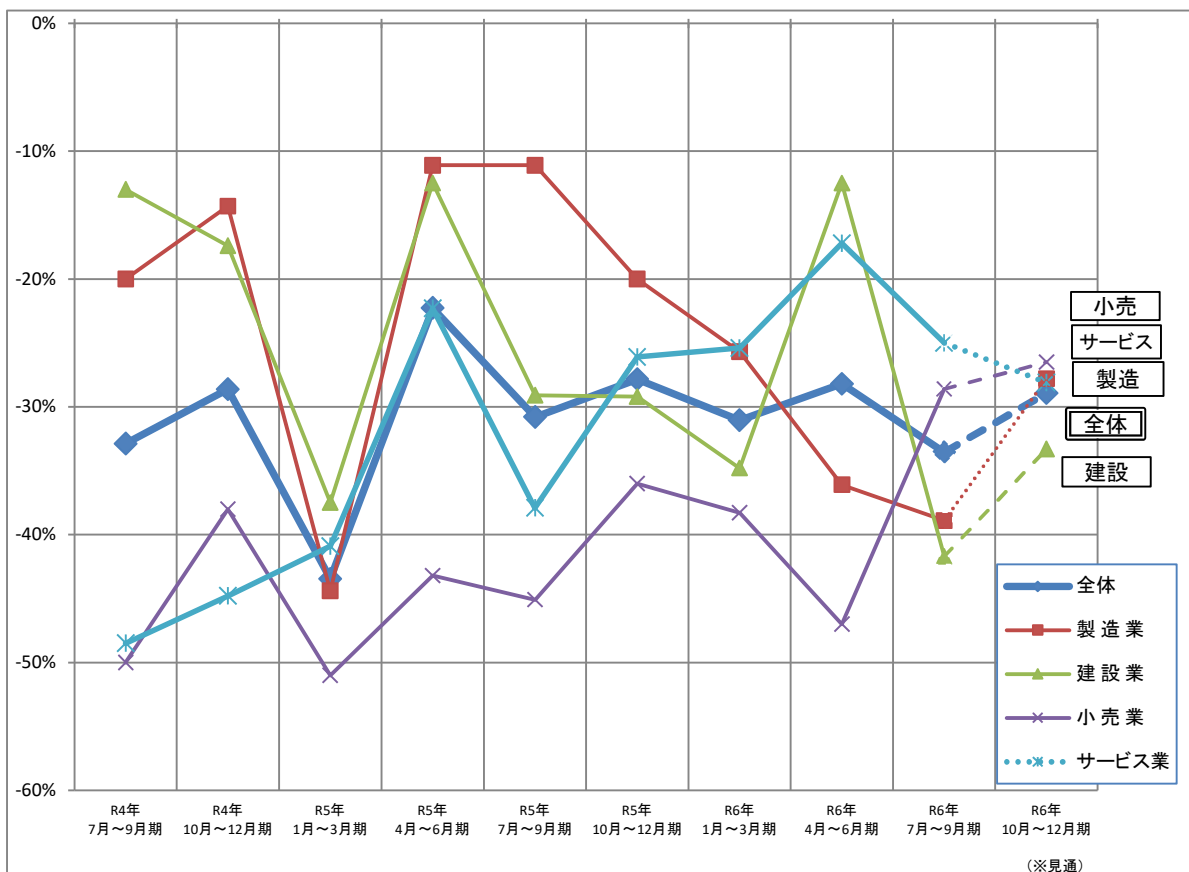
《売上と採算の推移》

(1) 売上 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(※見通)

(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



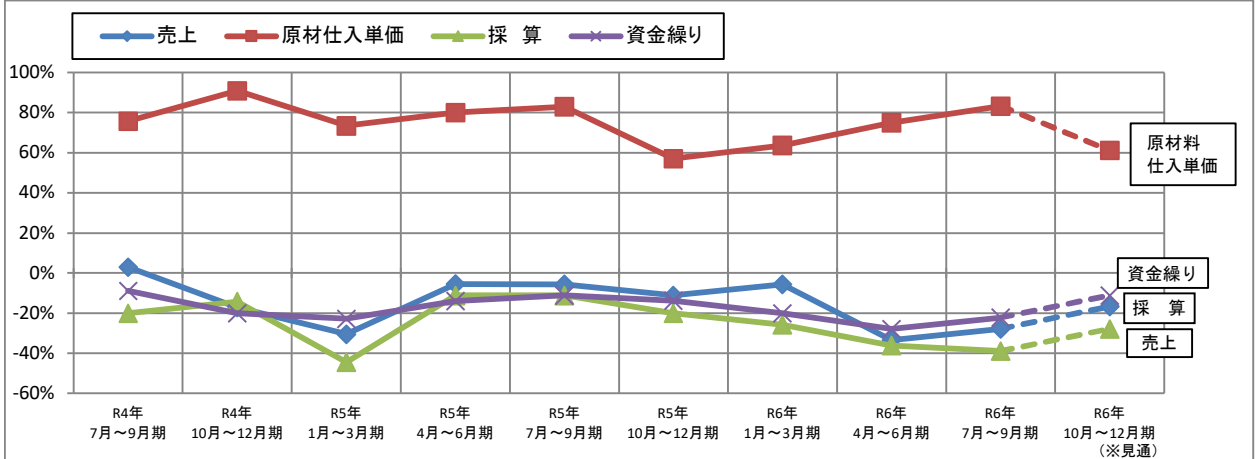
(※見通)

3. 各業種の景況

(1) 製造業

① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

製造業	R5年		R6年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期
売上	▲ 5.6%	▲ 11.1%	▲ 5.7%	▲ 33.4%	▲ 27.8%	▲ 16.7%
原材仕入単価	82.9%	57.1%	63.6%	75.0%	83.3%	61.1%
採算	▲ 11.1%	▲ 20.0%	▲ 25.7%	▲ 36.1%	▲ 38.9%	▲ 27.8%
資金繰り	▲ 11.1%	▲ 13.8%	▲ 20.0%	▲ 27.8%	▲ 22.2%	▲ 11.1%



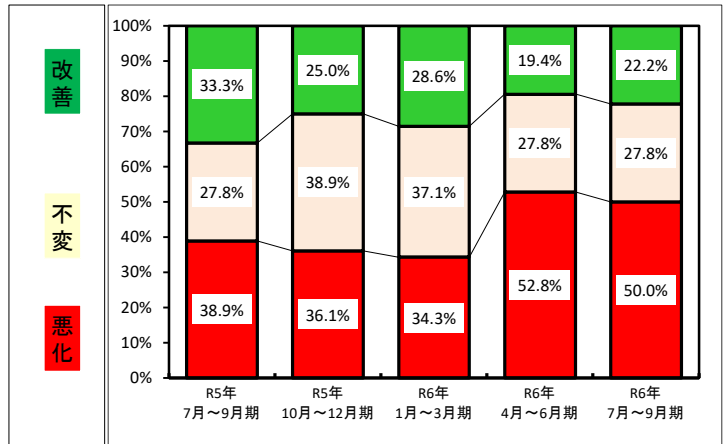
売上 …… ▲ 27.8 ポイント
(前期比 5.6 ポイント改善)

仕入単価 …… 83.3 ポイント
(前期比 8.3 ポイント改善)

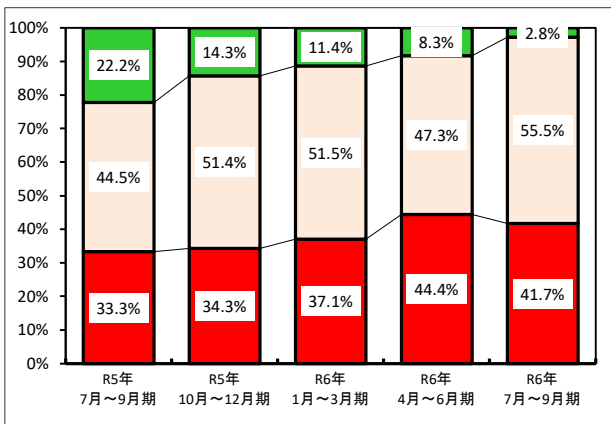
採算 …… ▲ 38.9 ポイント
(前期比 2.8 ポイント悪化)

資金繰り …… ▲ 22.2 ポイント
(前期比 5.6 ポイント改善)

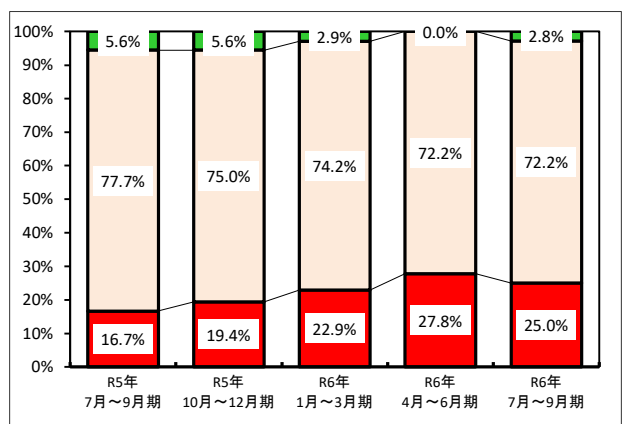
※『売上(加工)』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)

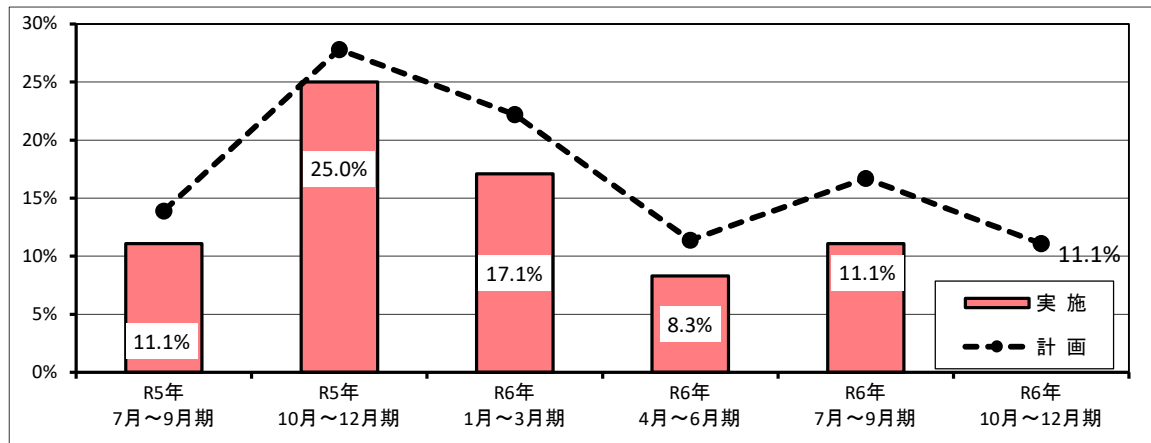


3. 各業種の景況

(1) 製造業

今期の設備投資の実施状況は、11.1%（前期比2.8ポイント増加）であった。

製造業	R5年		R6年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	50.0%	11.1%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
生産設備	25.0%	66.7%	50.0%	66.7%	25.0%	100.0%
設備投資の実施	11.1%	25.0%	17.1%	8.3%	11.1%	11.1%

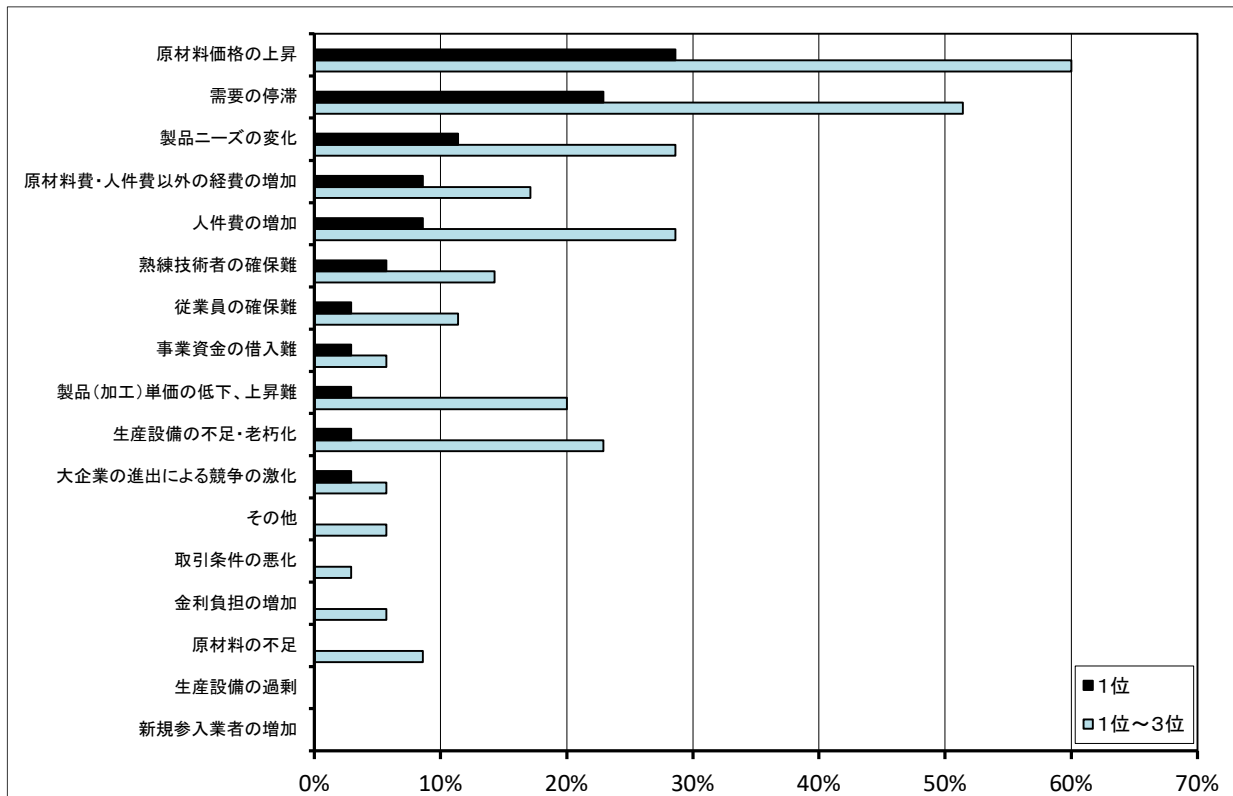


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「原材料価格の上昇」「需要の停滞」「製品ニーズの変化」が上位となった。

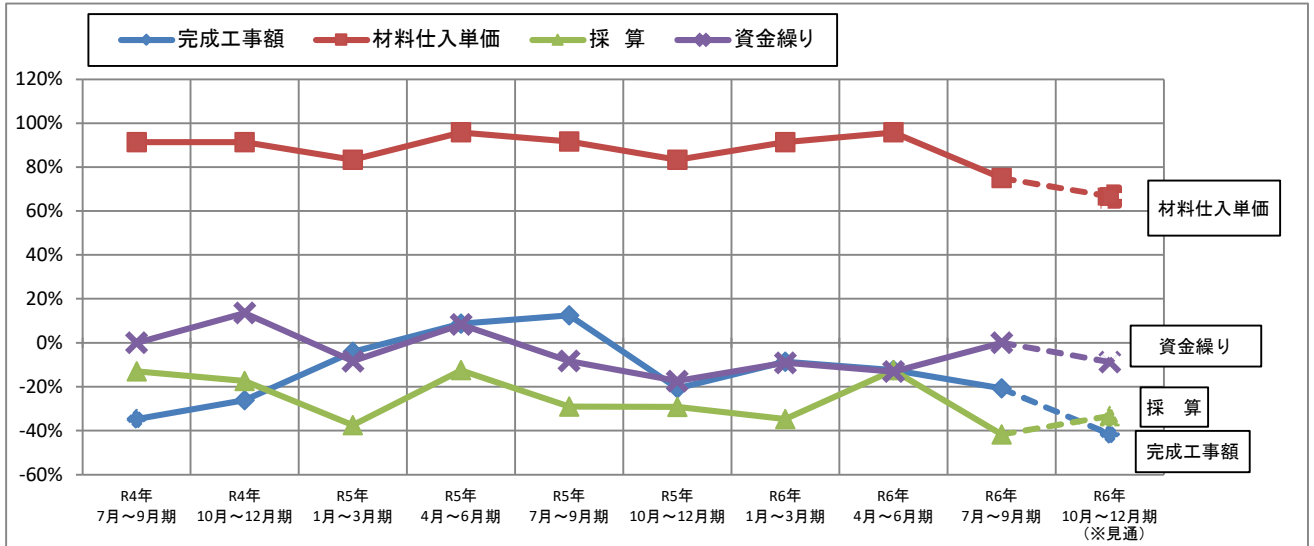


3. 各業種の景況

(2) 建設業

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

建設業	R5年		R6年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
完成工事額	12.5%	▲ 20.8%	▲ 8.7%	▲ 12.5%	▲ 20.8%	▲ 41.6%
材料仕入単価	91.7%	83.3%	91.3%	95.8%	75.0%	66.7%
採算	▲ 29.1%	▲ 29.2%	▲ 34.8%	▲ 12.5%	▲ 41.7%	▲ 33.3%
資金繰り	▲ 8.3%	▲ 17.4%	▲ 9.1%	▲ 13.1%	0.0%	▲ 8.7%



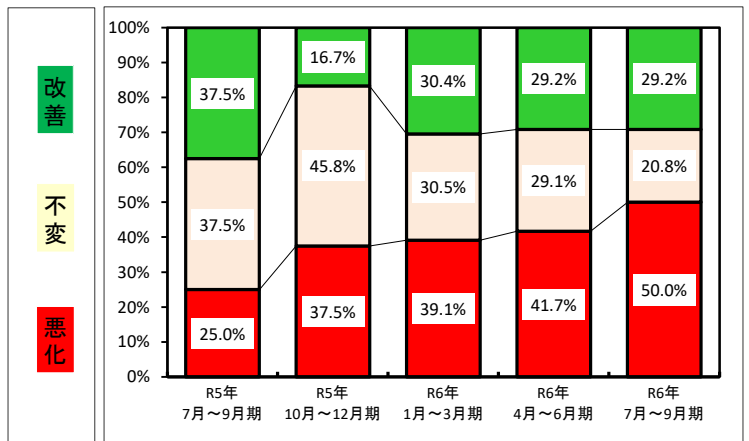
完成工事額 .. ▲ 20.8 ポイント
(前期比 8.3 ポイント悪化)

仕入単価 75.0 ポイント
(前期比 20.8 ポイント悪化)

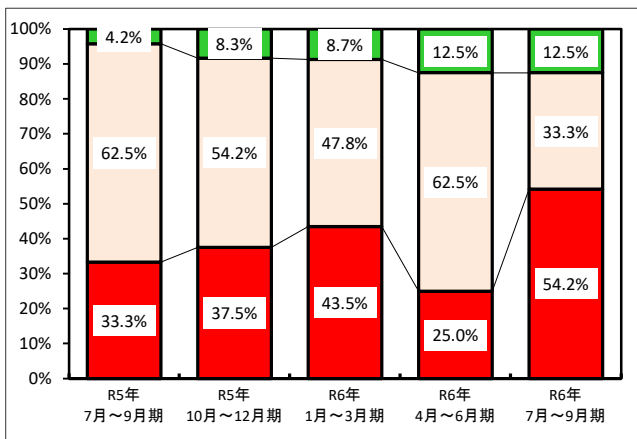
採算 ▲ 41.7 ポイント
(前期比 29.2 ポイント悪化)

資金繰り 0.0 ポイント
(前期比 13.1 ポイント改善)

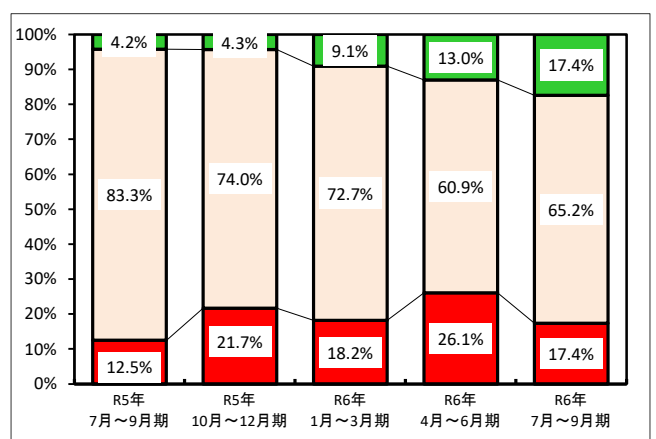
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



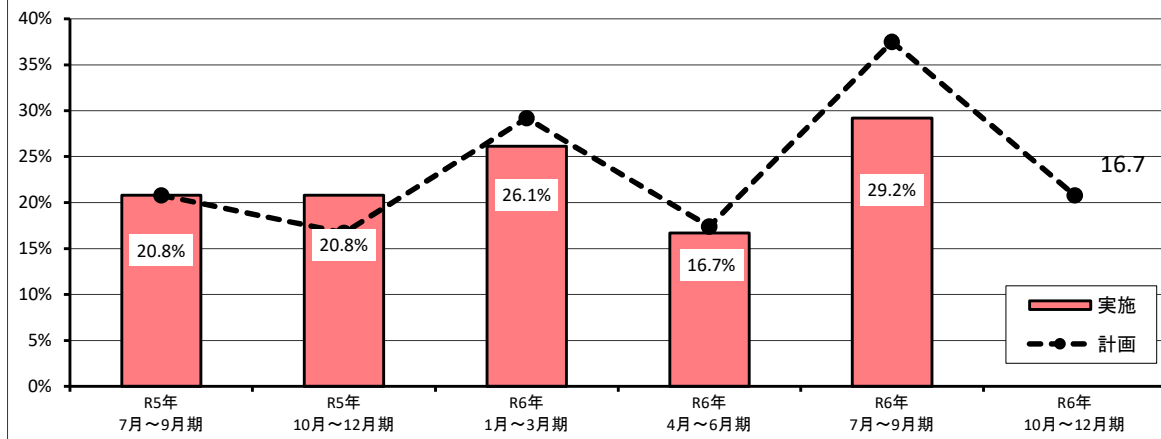
3. 各業種の景況

(2) 建設業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は29.2%（前期比12.5ポイント増加）であった。

建設業	R5年		R6年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
土地	40.0%	0.0%	16.7%	0.0%	14.3%	40.0%
車両・運搬具	40.0%	60.0%	66.7%	50.0%	42.9%	60.0%
建設機械	60.0%	20.0%	16.7%	0.0%	42.9%	20.0%
設備投資の実施	20.8%	20.8%	26.1%	16.7%	29.2%	20.8%

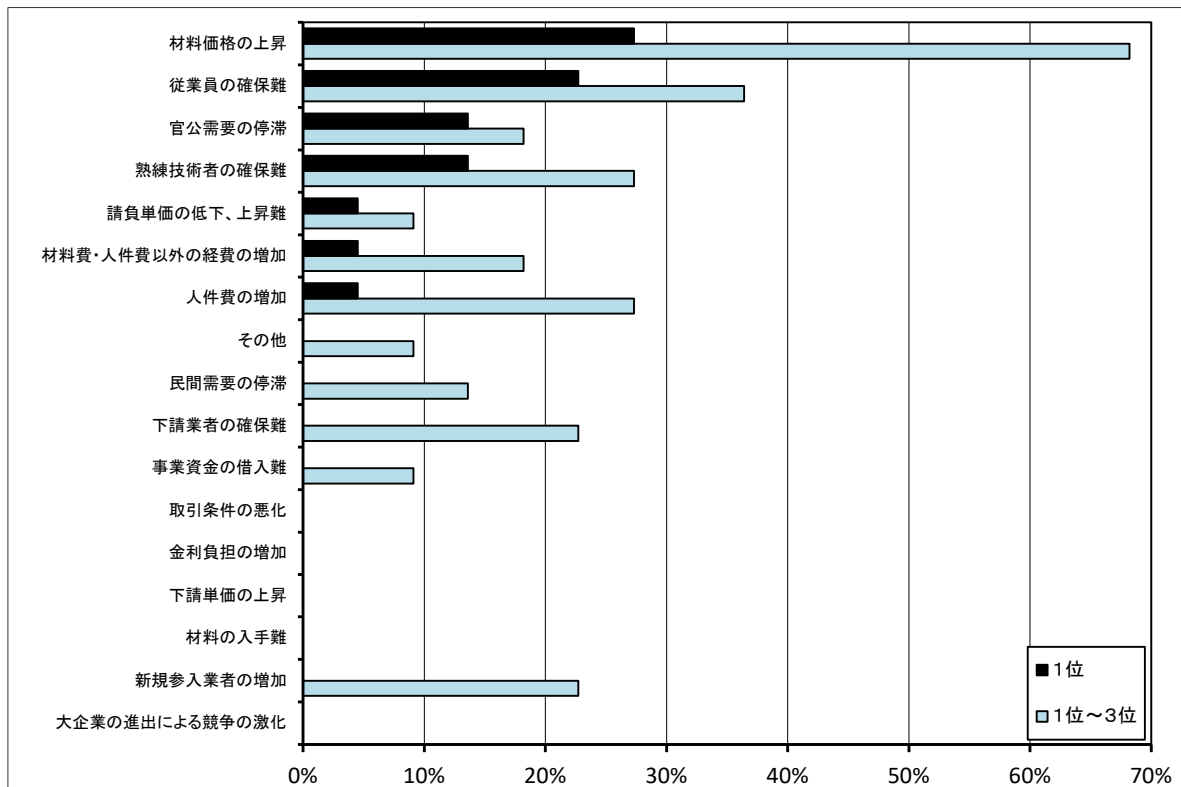


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料価格の上昇」「従業員の確保難」「官公需要の停滞」が上位を占めた。

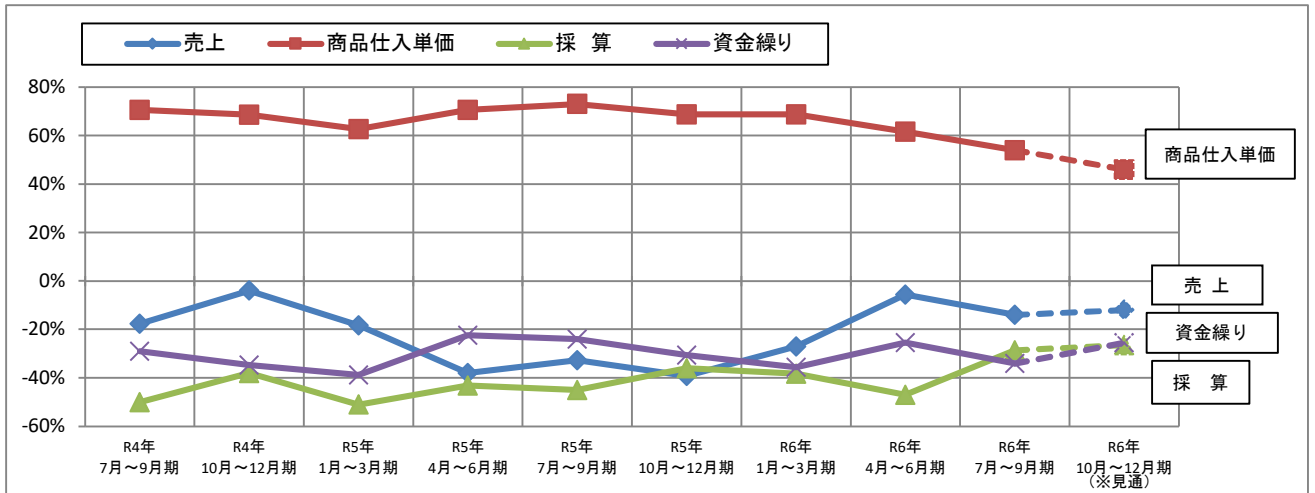


3. 各業種の景況

(3) 小売業

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

小売業	R5年		R6年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
売上	▲ 32.7%	▲ 39.2%	▲ 27.1%	▲ 5.7%	▲ 14.0%	▲ 12.0%
商品仕入単価	73.1%	68.7%	68.7%	61.6%	54.0%	46.0%
採算	▲ 45.1%	▲ 36.0%	▲ 38.3%	▲ 47.0%	▲ 28.6%	▲ 26.5%
資金繰り	▲ 24.0%	▲ 30.6%	▲ 35.6%	▲ 25.5%	▲ 34.1%	▲ 25.5%



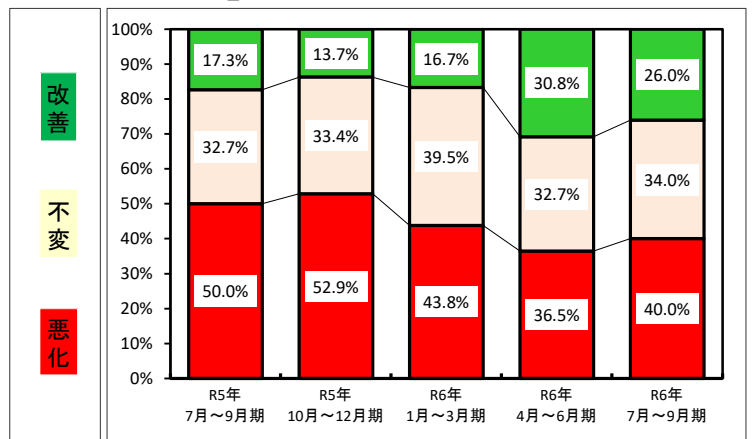
※『売上』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上 …… ▲ 14.0 ポイント
(前期比 8.3 ポイント悪化)

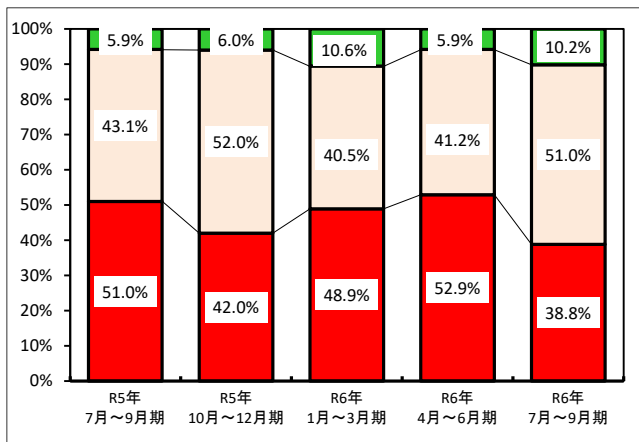
仕入単価 …… 54.0 ポイント
(前期比 7.6 ポイント悪化)

採算 …… ▲ 28.6 ポイント
(前期比 18.4 ポイント改善)

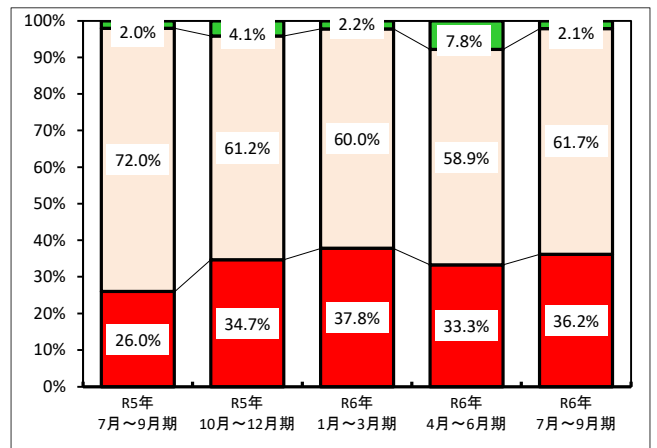
資金繰り …… ▲ 34.1 ポイント
(前期比 8.6 ポイント悪化)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



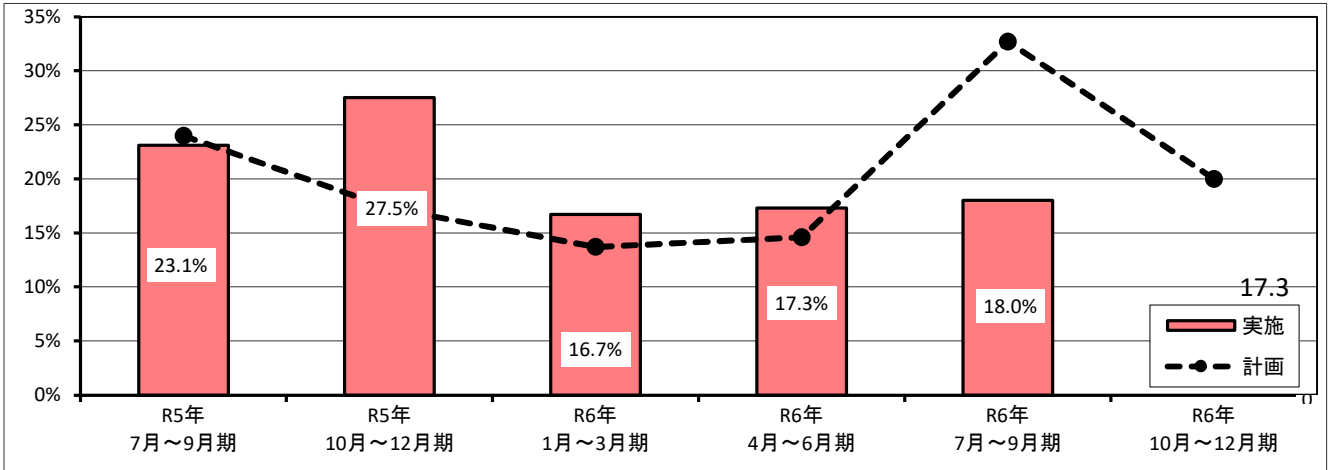
3. 各業種の景況

(3) 小売業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は18.0% (前期比0.7ポイントの増加) であった。

小売業	R5年		R6年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
土地	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
車両・運搬具	16.7%	7.1%	37.5%	22.2%	11.1%	30.0%
販売設備	41.7%	42.9%	37.5%	33.3%	22.2%	30.0%
設備投資の実施	23.1%	27.5%	16.7%	17.3%	18.0%	20.0%

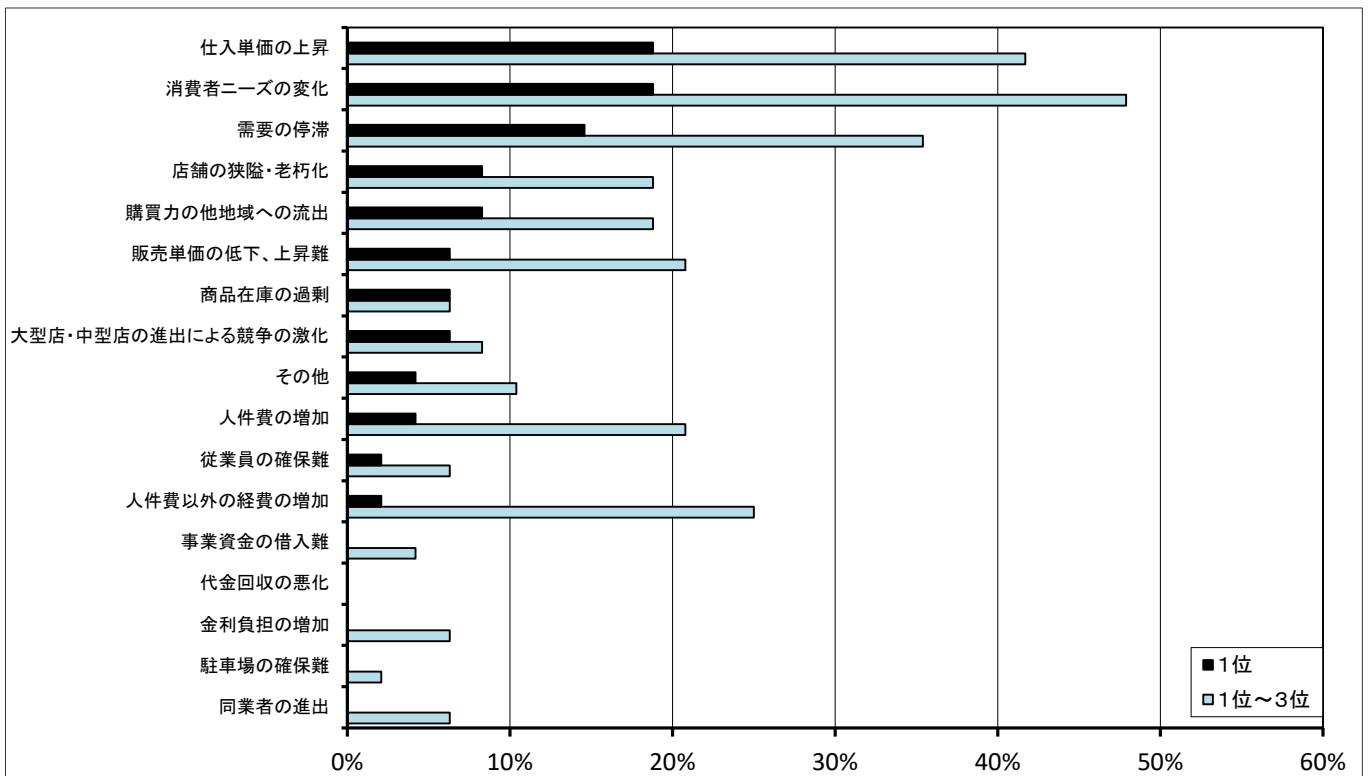


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」「需要の停滞」が上位となった。

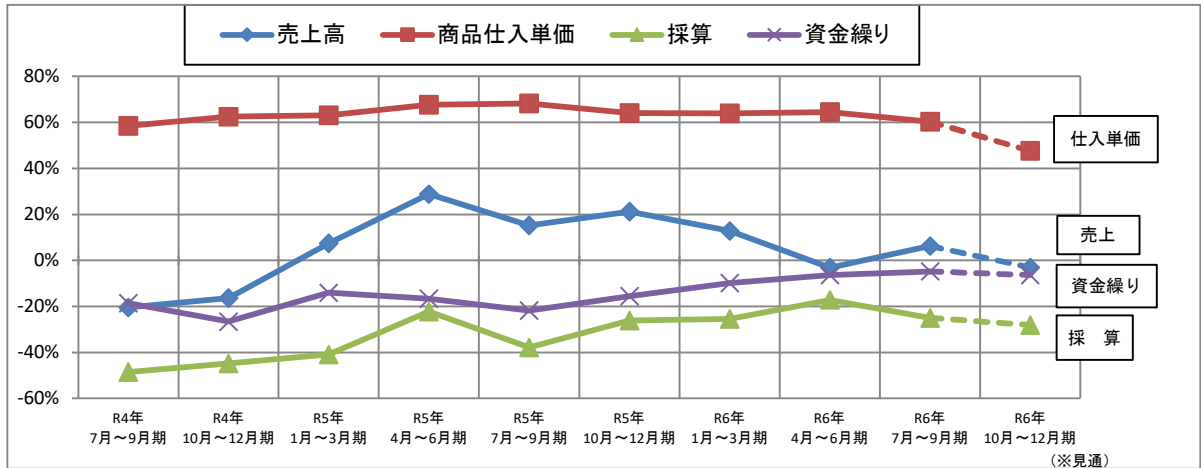


3. 各業種の景況

(4) サービス業

① サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

サービス業	R5年		R6年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
売上	15.2%	21.2%	12.7%	▲3.1%	6.2%	▲3.1%
仕入単価	68.2%	64.0%	63.9%	64.5%	60.3%	47.6%
採算	▲37.9%	▲26.1%	▲25.4%	▲17.2%	▲25.0%	▲28.1%
資金繰り	▲21.9%	▲15.6%	▲9.8%	▲6.4%	▲4.8%	▲6.4%



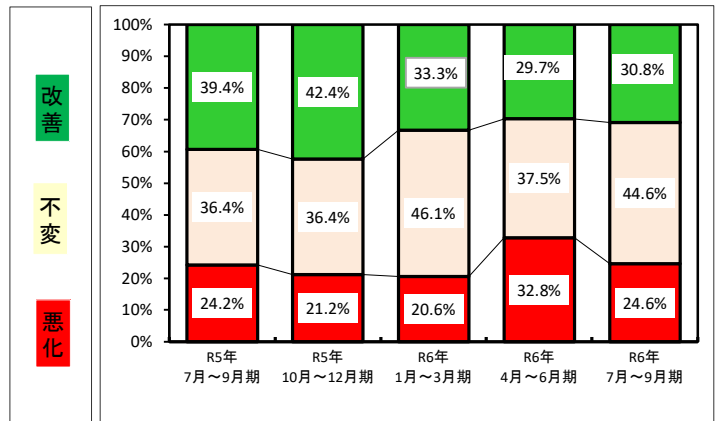
※『売上(収入)』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上・・・ 6.2 ポイント
(前期比 9.3 ポイント改善)

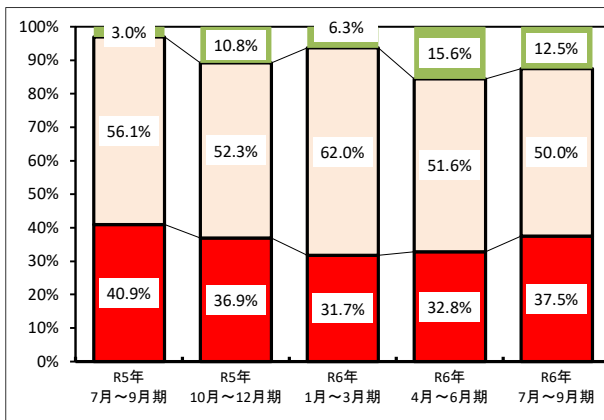
仕入単価・・・ 60.3 ポイント
(前期比 4.2 ポイント悪化)

採算・・・ ▲25.0 ポイント
(前期比 7.8 ポイント悪化)

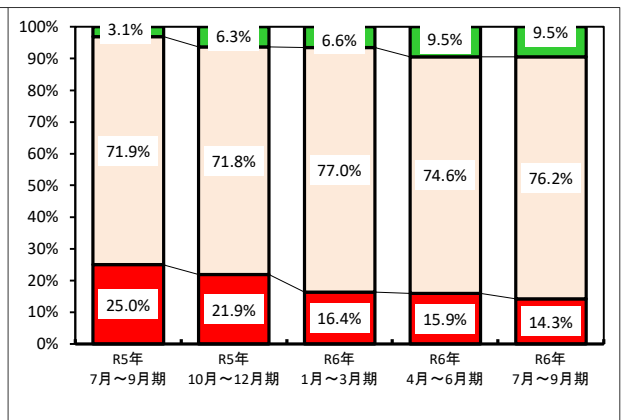
資金繰り・・・ ▲4.8 ポイント
(前期比 1.6 ポイント改善)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



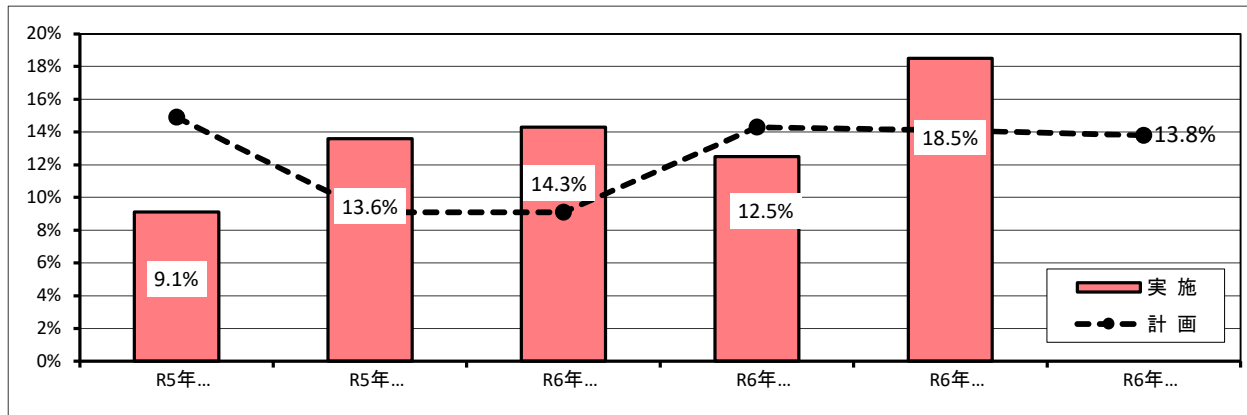
3. 各業種の景況

(4) サービス業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は18.5% (前期比6.0ポイントの増加) であった。

サービス業	R5年		R6年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R6年 10月～12月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
車両・運搬具	0.0%	0.0%	33.3%	12.5%	25.0%	11.1%
サービス設備	33.3%	11.1%	33.3%	0.0%	50.0%	44.4%
設備投資の実施	9.1%	13.6%	14.3%	12.5%	18.5%	13.8%

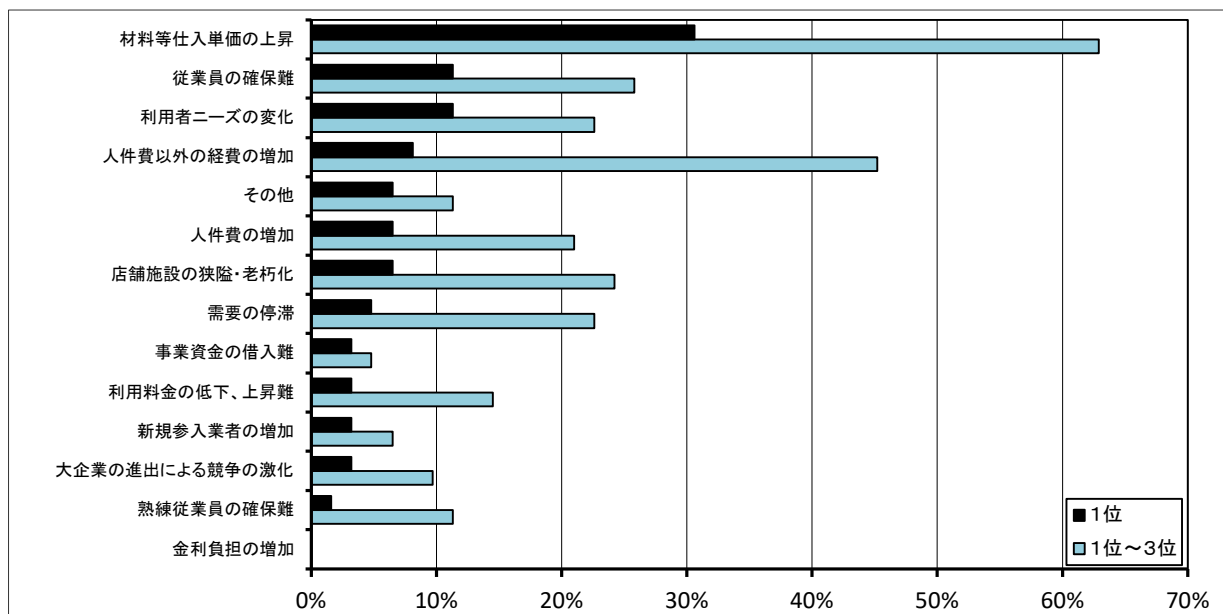


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料等仕入単価の上昇」「従業員の確保難」「利用者ニーズの変化」が上位となった。



京都府商工会連合会

600-8009 京都市下京区函谷鉾町78番地

京都経済センター 3F311号室

TEL : 075-205-5418

FAX : 075-343-0373

E-mail : office@kyoto-fsci.or.jp